



# かけはし

発行日：2012年9月1日 第22号

発行：国立病院機構



災害医療センター  
地域医療連携室

発行責任者：院長 高里良男



## 病院機能評価ver6.0に合格しました

当院では、本年3月に病院機能評価を受審いたしました。以前に2回機能評価を受けており、今回は3回目の受審にあたる訳ですが、昨年3月の東日本大震災に加え、5月に電子カルテの導入があり、12月に更新予定であったものを、少し準備期間をとって本年に受審となり、3月6日～8日で全体を、3月12日に付加機能の救急医療部門の審査を受けました。

サーベイヤーの方々が、病院のホームページをかなり詳細にチェックしてきていることにはびっくりしました。とくに、当月の外来医担当表などで更新されていなかった項目について、自己評価と異なる点をチェックされましたので、今後、受審される予定の病院には、受審前にはホームページを病院の最新情報に更新することが必要とアドバイスしようと思っています。4つの病棟の訪問審査では、電子カルテを見ながらということになり、1つのPCの前で2人のサーベイヤーが質問し、その質問に答える医師・看護師、さらに該当する場所を素早く電子カルテで開く担当がいて、密集した空間の中で約1時間ずつの審査を受けました。最終的に1カ所の問題点の指摘を受けましたが、改善し報告をした結果、8月の会議で正式に病院機能評価合格の通知を受けました。

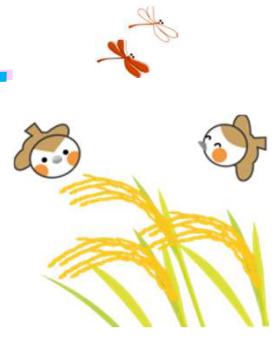
病院機能評価に関しては、どこの病院もかなり時間をかけて準備をしていると思いますが、当院での準備も約半年かかりました。膨大なエネルギーを使うわりには、得られるものが少ないとの声もありますが、前回の機能評価以来、そのまま放置されていた項目が見つかったり、倫理面での病院の対応の明文化(臓器移植法の改正などに合わせた)など新たに追加となった項目、業務分担のあいまいだったものも責任が明確になった項目もありました。院内案内表示の更新も行い、病院の雰囲気も明るくなったと思います。



佐藤康弘副院長



# 国立市医師会 と 災害医療センター 医療機能連携の会 を開催しました



## 災害医療センターとの医療連携懇親会

国立市医師会 会長 松尾 一久

7月25日、災害医療センターのレストランに於いて国立市医師会との医療連携の会が開催されました。災害医療センターからの呼びかけによって実現したもので、当医師会からは17名の会員が参加しました。センターからは院長の高里先生はじめ各診療科や各部署の重立った大勢の方々が出席してくださり、大変有意義な会であったと思います。

医師会を代表しての挨拶では、きれい事を並べても連携を発展させることにはならないとの思いから、敢えて連携の障壁となるであろう事項を申し述べました。国立市の東西には災害医療センター以外にも複数の大病院があること、国立市との距離の問題、産婦人科や耳鼻咽喉科の診療態勢等を率直に取り上げました。それらを踏まえた上で、各診療科の先生方からは前向きに積極的に患者さんを受け入れる用意があると強く訴えて頂けました。今までの災害医療センターの印象を一掃し、認識を新たにしたのは私ばかりではなかったと思います。

参加した会員からは高校時代の同級生がいたとか、皮膚科では既に災害医療センターとの勉強会を定期的に行っているとの話もありました。

病院と医師会の連携もこのような小さな連携の積み重ね、あるいはそれらの情報を共有し合うことで横のつながりから連携の基礎を作っていくのも必要なことだろうと思いました。

今後より良い医療連携が培われることを希望しております。



国立市医師会  
松尾一久会長



高里院長による挨拶



国立市医師会佐藤敦男先生による乾杯のご挨拶



意見交換会の様子



久々に再会した同期もいました





# 近隣医療機関紹介

## 指田医院

住所：東京都武蔵村山市中央3-50-1 Tel.042-561-0006

診療科：内科／小児科／老人医療／在宅医療



指田和明院長

この度、連携医として登録を頂きました。当院は昭和35年から武蔵村山市(当時は村山町)で内科・小児科の医院として開業し、現在に至っております。往年の国立立川病院の時代から度々お世話になっております。現在の災害医療センターとして発展している現在でも時々急病者がお世話になっております。

当院も時代の進展と共に内科の主に高齢者の方々の診療が多くなり、自宅でねたきりの方の往診なども行っております。只最近核家族化などのために、また各科の施設も段々に充実して来たこともあり、往診も少なくなって来ました。しかし老人の方は自宅で過ごしたいと言う方も多く、診察室で色々の相談や悩みを聞いたりして気持ちを和らげる様に努力しております。満足して、安心して自宅で過ごせる様なになれば良いと思っております。

只、高齢者は急に病状が急変すること多く、肺炎、心筋梗塞、脳卒中など緊急な場合に、検査、入院に大変助かっております。又軽快退院した方の自宅療養の時はできるだけお役に立てればと思っております。

よろしく願い申し上げます。



近隣の保育園から感謝のカードや写真が...



広々とした待合室



受付



西武バスおよび都営バスで「原山」下車



医院外観



# 医療手技研修室開設

## 第1回医療手技実地研修「高校生のドクター体験」開催

2012年6月12日(火)災害医療センターに医療手技研修室(俗称:トレーニングラボ)が開設しました。高里院長よりテープカットが行われて今後の方針が語られました。「教育は柱であり、将来への投資である。よい医療従事者を育ててこそよい病院に育っていく。」ありがたい一言でした。

一昔前、私が研修医だった約15年前には、この様な施設はなく、研修医同士の腕をお互いに使い採血やサーフローの医療手技練習を行ってきました。しかし、医療事故の中には手技練習されていれば防げた事象も多くあります。そこで、近年は徐々に医療手技研修室という部門がひろがりつつあります。

開かれた病院をアピールすることもこのトレーニングラボの使命でもあります。開設間もない8月10日第1回医療手技実地研修「高校生のドクター体験」を開催しました。

暑い夏休み真っただ中、高校生12名が参加してくれました。午後半日を使い、ヘリポート・救命病棟など回診後、トレーニングラボにて医療手技の実習を行いました。各専門医より心肺蘇生方法や内視鏡、縫合体験、診察方法などを体験していきました。最後に佐藤副院長より写真付きの修了証書授与を行ない楽しく終了しました。大変、好評でしたので来年度第2回も検討していきます。

まだまだ、医療手技研修システムは不十分です。しかし、院内の教育研修システムが確立してきた際には、近隣の先生方の御要望に合わせて医療手技研修室を使い講習会などを開催できればと考えています。



濱元陽一郎  
医療手技研修室副室長



縫合体験



研修中の写真と修了書を参加者へ



救命救急処置



手技一般体験



内視鏡体験

### Information 1

#### かけはし交流会のお知らせ

#### 大腸がん患者・家族交流会

参加費無料  
30名

日時:平成24年9月20日(木) 15:00~16:30  
場所:災害医療センター 地域医療研修センター  
(4F研修室)

### Information 2

#### 市民公開講座のお知らせ

#### 胃がんの治療

参加費無料  
200名

日時:平成24年9月29日(土) 14:00~16:00  
場所:災害医療センター 地域医療研修センター  
(4階研修室)

医療連携ニュース「かけはし」へのご意見ご感想をお待ちしております。ご連絡は地域医療連携室まで。

【地域医療連携室直通】担当:樋口早智子(ひぐちさちこ)  
TEL:042-526-5613 FAX:042-526-5547  
Eメール [renkei@tdmc.hosp.go.jp](mailto:renkei@tdmc.hosp.go.jp)

